

**(1) 第24回参議院議員通常選挙の結果**

①民進党が敗北した。野党共闘が敗北したのではない。

では、なぜ民進党は敗北したのか⇒改憲について民進党幹部の主張はバラバラ（→右図ご参照）で自分たちに改憲を阻止できる体制がないのに改憲問題を最大の焦点にしようという背任行為をおこなったため。

②福島選挙区（放射能汚染で復興が進まない問題）・東北各選挙区（T P P問題）・沖縄選挙区（米軍基地問題）という、重要問題が鮮明なところでは野党共闘が勝利し、福島・沖縄ではなんと現職大臣が落選し、かかる事態に自民党は動揺している※。

※ご参照：異例の現職2閣僚落選↓（下記URLをクリック）

<http://www.yomiuri.co.jp/fukayomi/chiran/20160714-OYT8T50058.html?from=y10>

（ミラーは<http://archive.is/JC826>）

また、静岡・京都両選挙区（共に2人区／自公・民進が各1名当選）では民進・共産両党を合わせた獲得票は自公のそれを上回っている。同日選挙となった鹿児島県知事選でも野党共闘が勝利したが、この選挙では原発問題が鮮明であった。

③①・②から、重要問題を鮮明にし、背任行為をおこなわなければ野党共闘が勝利する、ということが言える（この点で鹿児島県新知事が、「原発停止」の公約を破るといふ背任行為をしないことを願う）。

④これまでは自民党を強力に支援してきた2大宗教団体が方針転換し、これまでは公明党を強力に支持してきた宗教団体の内部からも同党の方針を批判する動きが起こり、公明党支持者でありながら野党共闘候補者に投票した人の割合が高かったことも③を補強する（かかる動きに公明党は動揺している）。

The diagram compares the positions of several political figures on the issue of constitutional reform. It is divided into two columns: '現行憲法重視' (Current Constitution Priority) and '改憲賛成' (Constitutional Reform Support).

- 現行憲法重視 (Current Constitution Priority):**
  - 12年5月: 辻元清美 (議員室長)
  - 16年5月: 岡田克也 (代表)
  - 15年5月: 長妻昭 (代表代行)
- 改憲賛成 (Constitutional Reform Support):**
  - 05年9月: 前原誠司 (元代表)
  - 16年1月: 細野豪志 (元環境相)
  - 13年4月: 長島昭久 (衆院議員)

Additional text in the diagram includes:
 

- Top right: 憲法改正をめぐる民進幹部らの主張 (戦力の不保持などを定めた) 9条2項は削除して自衛権を明記するというのが私の持論 (05年9月)
- Bottom right: (憲法改正の発議要件を定めた) 96条を改正することで改憲論議が深まる。憲法を評価しつつ発展させる改正はあり得る (13年4月)
- Bottom left: 憲法改正にあたっては、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重の3原則を本意の意味で崩さないということを確認する必要がある (15年5月)
- Bottom center: 憲法改正にあっては、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重の3原則を本意の意味で崩さないということを確認する必要がある (15年5月)
- Bottom center: やぶさかではない、我が家と議論していくのは、まさかという憲法があるべきかについては、いろいろな政党、政治、家と議論していくのは、やぶさかではない (16年1月)

朝日新聞 (16.7.13)

**(2) 都知事選 (16.7.31)**

民進党は、党首が選挙期間中に辞任（党代表選不出馬）を表明するなど、頼りにならないことを露呈した。

**(3) (1) と (2) を踏まえて、今後、どうするか。**

①野党共闘を実のあるものにするため、民進党を「壊憲阻止・戦争法廃止・米軍基地撤去・T P P反対・原発廃止」の政党として純化していく。~~この純化に抵抗する勢力（連合内の原発維持派や民進党内の改憲派など）には、かつての第2自民党たる民社党のような新党をつくっていただくか自民に合流していただく。~~

~~②①の過程で、社民・生活を民進党に糾合する。~~①は民進党の純化に抵抗する勢力（連合内の原発維持派や民進党内の改憲派など）の妨害で困難のようであるので、社民党と生活の党と山本太郎となかまたちに、参院で統一会派を組む流れを更に進めて新党結成を準備してもらい、ここに民進党の良心的部分に合流してもらって「改憲阻止・戦争法廃止・米軍基地撤去・T P P反対・原発廃止」を目指す純化された新党を結成し、共産党とは共闘を維持・強化する。小林節さんらの「国民怒りの声」など良心的な人々とも共闘する。<http://archive.is/m1edR#selection-565.37-565.58> (ご参照)

純化された新党はわかりやすい政党なので、新党ブームが起きるだろう。それは、維新や小池勢力がつくろうとするかもしれない第3極を影の薄いものにするだろう。そして、良心的部分が抜けた民進党にはかつての第2自民党たる民社党のような党になっていただくか自民に合流していただくか先細りになっていただく。

(4) (3) の過程の中で、野党共闘は政権を担う力量をつけていく。さすれば、公明も自民を離れる余地が生まれる。

(5) やがて、野党共闘は政権を取って与党共闘となり、それが政権を担う時代が続き、憲法・戦争法・米軍基地・

TPP・原発をめぐる問題は一定解決していく。(野党共闘が与党共闘となる時期は、民進党純化の速度による。また、改憲策動という虎の尾を自公維新が踏めば、その時期は早まる。はたして、改憲勢力はこの虎の尾を踏めるだろうか。少なくとも、第24回参議院議員通常選挙においては、踏むことはできなかった。)

(6) やがて、税財政問題もからんで、与党共闘は2つの陣営(「経済成長維持」か「縮小社会・脱成長社会をめざす」か)に分化していく。

(7) 与党共闘内の「経済成長維持」陣営と自民党は合体し、新2大政党時代が到来。経済成長か脱成長かで政権交代が続く。

(8) (7)の過程の中で、「縮小社会・脱成長社会」が形成されていく。

縮小社会・脱成長社会については、下記URL(クリックしてください)の記事をご参照ください。

<http://fileshelf.cocolog-nifty.com/blog/2013/04/post-a6fd.html>